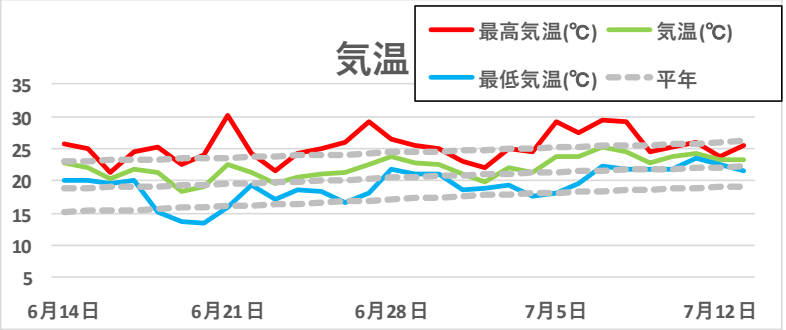
あぜ道
稲作技術情報
Ｎｏ．３６０（令和５年 No. ７）
令和５年７月14日
▼発　行▼
山本地域振興局農林部農業振興普及課

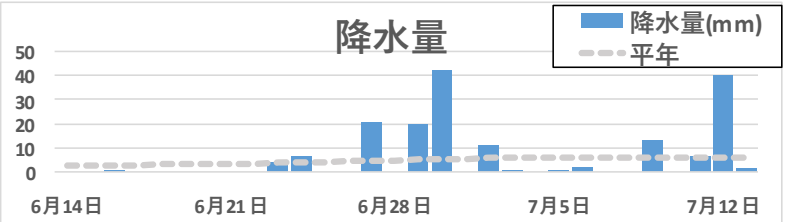
草丈長く葉色濃い

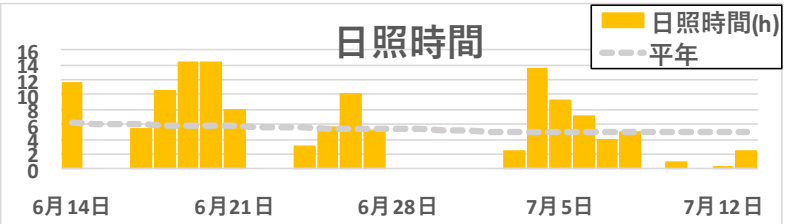
生育診断結果に基づいた追肥の判断を！

１　気象経過と生育状況

【気象経過】　これまでの気象経過（アメダスポイント：能代）







気温は、６月下旬から現在まで高い日が多くなりました。また、７日から現在まで最低気温の高い日が続いています。

降水量は、６月下旬と７月中旬の短時間のやや強い雨により40㎜を超えました。

日照時間は、７月５日以降曇天が多かったことから短くなりました。湿度が高く、蒸し暑い日が続いています。

【生育状況】

７月14日現在の管内水稲定点調査ほ（９地点、品種：あきたこまち）の生育は平年に比べて、**草丈が長く、茎数が少なく、葉色が濃い**状況です。

草丈は、寡照によって前回調査から引き続き、かなり長くなっています。

茎数は、降雨により中干しが十分に行えず土壌水分が維持されたことから、弱勢茎が発生し、増加した地点が見られました。

葉色は寡照により濃く推移しており、葉いもちの危険性が高まっています。

大部分の調査ほ場（田植日は５月13日～22日）では、幼穂長が２㎜以上となっており、幼穂形成期を過ぎています。

○定点調査結果（７月14日）

	草丈（cm）	茎数（本/㎡）	葉数（葉）	葉色
本年	72.2	**487**	**11.4**	**44.8**
平年	63.9	524	11.2	41.8
前年	69.2	397	11.6	41.5
平年比較	113%	**93%**	**+0.2**	**107%**
前年比較	104%	117%	-0.2	108%

※平年は過去10カ年の平均値、葉色はSPAD-502で測定した値

【減数分裂期と出穂期の予測】

○出穂期・減数分裂期の予測

田植日	減数分裂期	出穂期
５月10日	７月19日	７月29日
５月15日	７月21日	７月31日
５月20日	７月24日	８月３日
５月25日	７月26日	８月５日

（アメダス能代）

日平均気温から算出したあきたこまちの出穂期予測は、中苗の５月20日植えで８月３日頃（平年値８月６日）となっています。

気象庁の１か月予報では、７月21日まで気温が高くなると予報されており、さらに出穂期が早まる見込みです。

※中苗移植。７月13日以降は平年値を使用。

※減数分裂期：葉耳間長±０cmの茎が多く見られる時期（出穂期の10日前頃）

２　今後の水管理

○幼穂形成期以降は稲体の活力維持のため、間断かん水を基本（カドミウム含有米の発生が懸念される地域は湛水管理）とします。

○日平均気温が20℃以下、最低気温が17℃以下が予想される場合は、水深15cm以上の深水管理を実施しましょう。

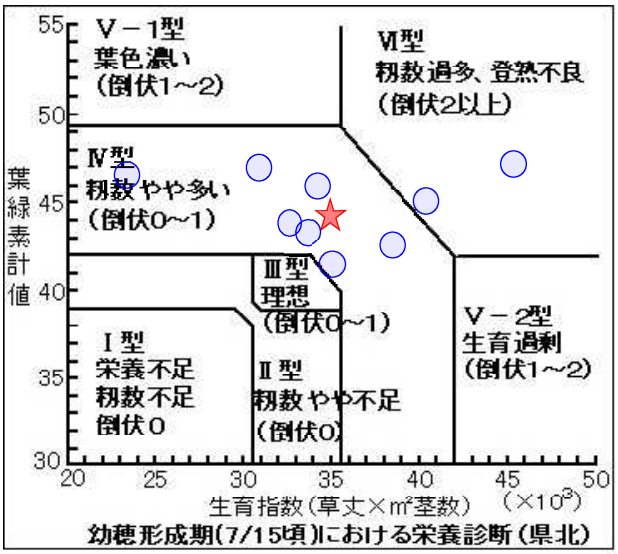
○フェーン現象など、乾燥した風が強く吹く場合には、湛水管理を行います。

★カドミウム含有米の発生が懸念される地域では、**出穂期前後３週間の計６週間（平年７月15日頃～８月25日頃）は湛水管理（水田に常時水を張り、土壌表面を空気に触れさせない）を厳守**してください。また、**本年は出穂が早まる見込みのため注意してください。**

３　減数分裂期追肥の判断

○７月14日の各定点調査ほにおける栄養診断は、右の図のようになっています。茎数が不足傾向ですが、草丈が長くなっているため、生育指数が大きい傾向にあります（幼穂形成期頃の理想的な生育指数は33.0前後です）。

○幼穂形成期以降、極端に葉色が低下すると、一穂粒数の減少や有効茎歩合の低下を招きます。**生育量が不足している場合や、葉色が低下している場合は減数分裂期を待たずに追肥を行ってください。**



★ 管内平年値　◯ 各調査地点

○減数分裂期に葉色が濃く草丈が75cm以上の場合、倒伏の危険性が高くなるので、減数分裂期追肥を控え、倒伏軽減剤の散布を検討します。

４　病害虫の防除対策

【いもち病】

○病害虫防除所の発生予察情報によると、本年は平年よりも葉いもちの発生量がやや多いと予想されています。

○葉いもち予防剤（オリゼメート等）を使用していても、時期的に防除効果が弱まっているため、ほ場内を巡回して発病がないかを確認してください。

○葉いもちが発生した場合は、出穂15～７日前にコラトップ（１キロ粒剤12、豆つぶ、粒剤５）またはゴウケツ粒剤（サンブラス粒剤）のいずれかを散布するか、出穂直前と穂揃期に予防剤（トライフロアブル、ラブサイド剤又はビーム剤）の茎葉散布を行います。

【斑点米カメムシ類】

○**同所の発生予察情報より、本年は平年より斑点米カメムシ類の発生量が多くなっていると予報されています。**

○特に、出穂しているイネ科雑草が見られる畦畔ですくい取り数が多くなっています。畦畔や農道等の草刈りは、出穂10日前（田植日が管内の盛期の５月20日の場合７月24日頃）までに終了してください。

○水田畦畔刈り込み代用剤を散布すると、40～50日の抑草効果が期待できます。

○水田内のノビエや、ホタルイ等のカヤツリグサ科雑草の除草を徹底しましょう。
除草剤の使用に当たっては、使用時期に注意してください。

○斑点米カメムシ類の発生が多いことから、本年の薬剤防除は出穂期10日後頃と同24日後頃の２回散布を基本とします。散布計画の策定と薬剤の準備を早めに行いましょう。

＜農薬の飛散防止と安全使用の徹底＞

(1)農薬散布時は、周辺作物への飛散防止対策を徹底してください。
(2)散布前に使用農薬のラベル等を熟読し、使用法を厳守してください。
(3)健康管理や服装・装備等を万全にし、涼しい時間帯に散布しましょう。
(4)農薬散布後は、防除用具の洗浄を必ず行いましょう。
(5)防除履歴を必ず作成してください。

不明な点がありましたら、山本地域振興局農林部農業振興普及課(TEL52-1241)までご連絡ください。